



市民病院

ハナちゃん通信

問合せ
市民病院管理課
☎(48)5050

全国糖尿病週間にあわせて、イベントを開催します

11月14日は「世界糖尿病デー」です。糖尿病が原因で亡くなる人を少しでも減らそうと、病気の予防や治療継続を呼びかけるキャンペーンが世界中で行われます。キャンペーンでは、一致団結して糖尿病と闘おうという意味をこめ、青い円（ブルーサークル）をシンボルマークとして用い、シンボルカラーの青色で歴史的な建造物をライトアップする取り組みもされています。今年は、大阪城や善光寺などがライトアップされる予定です。



△青色にライトアップされた大阪城

日本では、11月14日を含む1週間を「全国糖尿病週間」とし、各地で講演会や健康相談などが行われます。

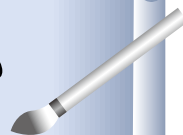
市民病院でも、11月8日(火)にイベントを開催します。毎年恒例の血糖測定はじめ、新たにラジオ体操やポールウォーキング体験など、血糖値を下げるために体を動かすコーナーや、口のなかの相談コーナー、動脈硬化の程度がわかる検査などを企画しています。また、糖尿病関連グッズをもらえるスタンプラリーもあります。参加は無料で予約も不要ですので、皆さんお誘い合わせのうえ、気軽に参加してください。

全国糖尿病週間関連行事

とき 11月8日(火) 9時～13時

ところ 市民病院

碧南の歴史へのいざない



問合せ 文化財課内市史資料調査室 ☎(41)4566

No.30 人物小伝 服部長七

高浜市の服部新田、広島県の宇品港、明治用水頭首工と樋門、名古屋港などの工事、これらの共通点が何か分かりますか。それは、碧南市新川出身の服部長七が手がけた工事だということです。彼は大久保利通や木戸孝允の屋敷工事も手がけています。

長七は、天保11年(1840年)に左官職人の三男として生まれました。16歳のときに、一家の大黒柱の父が亡くなったことで働きに出ることになり、まんじゅう屋など様々な職を経験したあと、東京に良水をひきたいという願いから「たたき屋」を始めました。

「たたき」とは、3種類の材料を混ぜ合わせて作った固め土のことで、土間の床などに使われていました。



△最晩年の服部長七(市所蔵)

長七は明治9年(1876年)36歳のときに、「長七たたき」を発明しました。人造石といわれ、それまでのたたきとは違い、とても丈夫で環境に優しく、水中で固まるという特性を持っていました。この長所が堤防や樋門工事に適していたため、大規模な工事に採用されました。コンクリートの普及により、役割を終えましたが、アンコールワットの修復などに使われ、今その価値が見直されています。

長七は晩年、岡崎市にある岩津天満宮を中興し、大正8年(1919年)にその生涯を閉じました。



△市役所庁舎北にある長七たたきの小径